



運搬



生活
文化

37
まいん

あと プラットホーム跡



昭和30年代撮影
原 茂夫氏提供



現在の
プラットホーム跡

たくさんの人と思いを
乗せて運ぶかご電車



昭和37年(1962) 松浦 勲氏提供

プラットホームは、東平から第三通洞へ、さらには別子側の日浦までを結ぶ電車の乗り降りをするための場所です。

かご電車は、一般の人が利用する客車のことで、その様子から「かご電車」と呼ばれています。

**じんしゃ
人車**は坑夫が通勤に利用する車両のことで、台車に座席がある程度の簡単な構造になっていました。

昭和13年(1938)から、人車の後にかご電車が接続され、一般の人が別子山日浦まで行くための唯一の交通手段として活躍しました。プラットホームを出発した電車は、プール下のトンネル(通称:小マンブ)を通り、喜三谷のトンネル(通称:中マンブ)を通り、第三通洞に至ります。

電車は蓄電池型と、電線から電気を取って動いていたトロリー型もありました。電車の運行は朝・昼・夕方の3便でしたが、夕方の電車に乗り遅れたり、急用の場合、また^{いかだつ}筏津の人が東平で夜の映画を見ての帰りなどに特別電車(特電)を出すこともあったそうです。

東平、日浦間は30分程で結ばれていました。

東平坑が閉坑した後、かご電車は5年間は運行されていましたが、一日2便に減少されました。

昭和48年に35年の歴史を閉じました。



昭和48年撮影
別子銅山記念館所蔵



昭和32年撮影
別子銅山記念館所蔵

